

## 令和3年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会 会議録

日 時：令和3年6月8日（火）午前9時30分～午前10時51分

場 所：へきなん福祉センターあいくる 第2・3会議室

出席者：審査委員6名

【村松昭一、金子潤、永坂幸子、鈴木まゆみ、角谷恵里子、杉浦英樹】

：事務局4名【生田和重、中根雄介、齋藤静絵、都築征希】

：説明者1名【市民活動センター長 大野裕史】

傍聴者：なし

### 会議内容

#### 1 あいさつ

委員長あいさつ

#### 2 議題

##### (1) 令和2年度市民活動センター事業報告及び決算について

大野センター長より資料にもとづき説明

<質疑・応答等>

審査委員：サポプラまつり等、素晴らしいことを行っていることを実績報告書に掲載した方がセンターのためになるのかなと思う。

説明者：おうちでサポプラまつりに関して、動画投稿サイトにアップロードするタイミングが遅かったため、完了報告書の提出の際に間に合わなかった。

審査委員：租税公課の内訳は消費税だけか。

説明者：碧南市市民活動センターについては、消費税のみ。

審査委員：人件費等で予算と決算とで数字が離れており、予算額の整理等を行っているのか。今の状態では、人件費が削減されているように見えてしまう。

- 説明者：人件費については、最大値を考慮して計上している。時間外に会議等の作業が入った場合、通常の2人では対応できず、大人数で対処する必要があり、それを考慮して予算を組んでいる。
- 審査委員：一般管理費でコロナ禍のため、実施できなかった事業が多くあったとのことだが、実績において、計上されている数字は実際に使った金額なのか。コロナ禍で使えなかった金額も入っているのか。
- 説明者：使っていない金額も入っている。
- 審査委員：今回はコロナ禍ということだが、もし、大規模災害が発生したとして、通年を通して事業が一切できなかった場合は、この一般管理費の扱いはどうなるのか。繰越金という項目を作ったほうが分かりやすいのではないか。
- 説明者：指定管理の場合は管理者が指定管理料の範囲で事業・管理を行う。これは、基本的に残してはいけないので、余った分は指定管理者の方に実績として入っていくということになる。
- 審査委員：基本協定の中で、何かあったら相互に協議するとあり、特段のことがなければ、指定管理料が変わることもない。碧南市において、例えば明石公園や芸術文化ホールといった施設は、利用者からの収益が多くあり、閉館等を行う際は、その損失分を補填する必要が出てくる。市民活動センターは、利用者による収益がほとんどないため、現状の指定管理料の範囲で事業を行っていると思われる。もし、今後、大規模な災害が起こった場合は、協議の必要が出てくると思う。
- 事務局：令和2年度はコロナ禍のため、実際に事業ができなかった部分が多くあり、現状としてその分は一般管理費として余剰金的な扱いとなっているので、令和3年度以降で事業を拡充していくときには今回のことを考慮して事業を進めてほしい。
- 説明者：コロナ禍という特殊な状況もあったが、どのようにしたら事業・イベントを行うことができるのかを考えながら事業を進めていきたい。

審査委員：碧南市としての指定管理料なので、もし事業ができなく、余った分があれば、翌年以降でもいいので、ぜひとも碧南市の事業、碧南を盛り上げるために使ってほしい。

(2) 令和3年度市民活動センター事業計画及び予算について

大野センター長より資料にもとづき説明。

<質疑・応答等>

審査委員：市民活動センターは地区に限定されないと思うので、碧南市のいろいろな地区、新川以外の地区においても出向いて行っていろんな場所でPRをしてほしい。

説明者：昨年度からほかの地区でも行っていきたいとは思っていたが、コロナ禍で難しく断念していた。少なくとも新川地区は行う熱意で実施していきたい。令和3年度は、まちづくりの担い手を育成するレベルアップ講座の実施を計画している。

説明者：サポプラまつりにおいて、令和3年度どのように行うかは今後話し合っていないといけませんが、実行委員会では、商店街をまきこんだサポプラまつり・おうちでサポプラまつりができないか、また、高校生に一部の事業を計画してもらい、高校生の視点を取り入れられないかとのアイデアも話し合っている。

審査委員：高校生の視点を取り入れるのはとてもいいことだと思いました。

説明者：資金調達についてもサポプラのホームページでの広告使用料を収入源にできないか検討している。事業において、オンラインを十分に活用し、講座等も対面式とオンラインのハイブリットで行っていきたい。

説明者：予算について、この審査会で指摘を受けたことについて、令和3年度で修正するのか、令和4年度からの修正とするのか。

事務局：今回直さないと次回の実績の時に同じことになってしまうので、今回指摘いただいた部分を修正し、また、繰越枠を作って再度提出して委員の皆さんに再度送付する方法としたい。

- 説明者：具体的な方法については、再度相談させてほしい。また、予算を組む際に指定管理料の金額が円単位なため、予算も円単位になっているのでそれもあわせて相談していきたい。
- 審査委員：イベントスケジュールを見るとやはり拠点が「あいくる」なこともあり、新川地区が多い。PR もかねて他の地区のイベントにも参加・活動して行ってほしい。
- 審査委員：コロナ禍で、センターの中で行う事業が少ないのであれば、外に出てPR して市民が自主的に市民活動・ボランティア活動できるようなサポートをしてほしい。
- 説明者：今年度は最初に1つは確実にやりたいとの思いからスケジュールに記載した。
- 審査委員：素晴らしいことを行っているが、認知度がまだ高くないように思う。市としてどのようにPR していくのか教えてほしい。
- 事務局：市民活動センターの設立の際にセンターにお願いしたい内容の1つに町内会の支援というものがあった。碧南市の特徴・課題として、町内会への負担が大きいことがある。これを少しでも減らしていけるように、新川地区に限らず、活動のサポートを行い、連絡委員幹事会においてもPR できるようにしたい。
- 審査委員：町内会や公民館まつり等で活動する際に、市民活動センターで予算をつけることができるか。
- 説明者：事業費で予算をつけることができるか検討する。
- 審査委員：碧南市役所地域協働課でやるまちづくりの担い手講座と市民活動センターで行うまちづくり担い手講座とでどう違うのか。
- 説明者：まちづくりの担い手講座を開始したときは最初の年は地域協働課が主催し、次の年からは市民活動センターが主催していった。その後、地域協働課は「マチスク」の事業を始めた。
- 審査委員：災害への備えを学ぶ会はサポプラが主催しているのか
- 説明者：基本的に実行委員会が組織されており、その事務局をしている。

審査委員：各地区の防災担当の人たちが集まって学ぶ場所はあるのか。

説明者：災害への備えを学ぶ会には災害ボランティアの会の方や各地区の方々も何人か入っている。市がファーストミッションボックスの講座を行った際も半数が災害への備えを学ぶ会のメンバーとなっている。

審査委員：ファーストミッションボックスとは。

説明者：災害が起きた際に避難所等において、最初の30分の初動が大切で、その手順・指令書等を入れている箱のこと。

審査委員：予算については、コロナ禍でイレギュラーなことが多い中、透明性をもって、一般的に近い形で行ってほしい。

### 3 その他

<特になし>